

# 的外

みのる法律事務所便り

第360号

令和2年4月

い な べ ん だ べ ん く  
田舎弁護士の駄弁句

みのる法律事務所

弁護士 千田 實

〒021-0853

岩手県一関市字相去57番地5

TEL : 0191-23-8960

FAX : 0191-23-8950



67

ありがたや

あゝありがたや

ありがたや

30年間 休まず出せて

令和2年4月3日

青空浮世乃捨



この事務便りは、今月号で第360号となりました。

月1回の発行ですから、第1号から丸30年間が経過したことになります。

第1号は、平成2（1990）年5月ですから、私もまだ47才ということになります。当たり前ですが、いまより30才若かったのです。

あれから30年の間には、東日本大震災・三陸沿岸巨大津波があり、10回を超える手術や人工透析治療を受け、生死の境をさまよったりしました。

しかし、この間、この事務所便りは、1回も休まずに出せました。これは偏に私の身の回りの人の支えによるものです。

それが、ありがたくて仕方ないのです。事務局より「今月号で360号です。30年となりました」と言われた瞬間、この駄弁句がすぐ頭に浮かびました。

この事務所便りをお読み下さっている皆様をはじめ、私を支えてくれた一人一人の顔を思い浮かべながら、この句で御礼申しあげます。30年間ありがとうございました。

いいかげん 気付いてほしい どの人も  
コロナが教える 戦争の愚かさ

令和2年4月4日

青空浮世乃捨



コロナウイルスは世界中で拡大しています。今日のニュースでは、感染者は世界で100万人を超えたとのことです。このような状況の中で、北朝鮮ではミサイルの発射実験をしたという報道もあります。

国と国とが武力を使って、争う戦争などしている時ではないことを気付かない馬鹿がいるようです。人類と人類が闘う時代はとうの昔に終わっているのです。

コロナウイルスは、人類ではありません。人類ではないのですから「異人類」と呼んでもいいと思います。いま人類は、コロナウイルスという異人類と闘っているのです。世界中の人が国や国境など関係なく、若い人も、年寄りも男も女も、誰もがコロナウイルスという異人類と闘っているのです。

そんな状況の中で、人類を殺すミサイルなどに金を使う馬鹿がいることを知り呆れ果てました。コロナウイルスを撃退するためには、莫大な金がいるのです。いますぐ世界中の軍事費をコロナウイルス対策費に回さなければならない時です。戦力などに金をかけてはいられないのです。世界中の人が、一人一人がそれに気付いてほしいのです。



## コロナウイルスと9条

—いいかげんに気付いて—



一関9条の会の「2020新春の集い」で、『戦後75年と憲法9条』と題して講演したのは、令和2（2020）年2月9日でした。同年3月28日には、一関文化センターで「改正民法の出版記念講演会」を予定し、御案内を差し上げたところ、この事務所便りをお読み下さっている皆様の多くの方よりご出席とのご回答を頂戴していました。

ところが令和2（2020）年3月16日になって、延期の通知を発せざる得ない状況に陥ってしまいました。その理由は、コロナウイルス問題です。コロナウイルス問題は、中国から全世界に広がり、私の身の回りにも影響を与えるようになったのです。

今日、令和2（2020）年4月4日の新聞報道によると、世界中では、コロナウイルス感染者は100万人を超え、死者は5万人を超えたとのことです。

いまや、コロナウイルスと人類との闘いという様相を呈してきました。地球上の全人類とコロナウイルスという異人類との闘いとなっていました。

人類と人類とが、国と国とが武力を使って闘うという戦争の枠を超えたレベルの闘いとなっています。これは、人類同士が闘う戦争とは次元を異にする闘いです。人類と異人類の闘いです。

こういう状況の中で、「人類同士で、国と国とが武力を使って争う」という戦争の意味と、その戦争の放棄を謳った日本国憲法9条の意味を見直してみると、意義深いことだと確信しました。そこで、急

いで『コロナウイルスと9条』と題して、思うところを述べることにしました。この時だからこそ、この問題を語りたいのです。

結論を言えば、人類同士での戦争、つまり、国と国とが武力を使って争うような時代は終わったということを言いたいのです。第二次世界大戦後の地球は、人類と人類とが武力を使って争うという戦争はできない状況となっているのです。そこに気付かない馬鹿が多すぎます。そのような馬鹿が、地球上に溢れています。日本中に溢れています。そう思うのです。

昭和20（1945）年8月に広島と長崎に原爆が投下された以降の地球は、人類が戦争をしたら地球は壊滅し、人類は滅亡する状態となっているのです。人類と人類とが武力を使って争う時代は、核兵器が出現した時点で終わったのです。それに気付かない馬鹿が舵かじを取っている国が多く、それを許す国民が多すぎます。もう気付かなければならないときなのです。

人類同士が武力を使って争う時代は終わり、人類は異人類と闘わなければならぬ時代となりました。コロナウイルスは、人類が闘うべき当面の相手です。いまは、全人類は、一致団結して、コロナウイルスという異人類と闘わなければならぬ状況となっているということに気付かなければならぬのです。

こんな時に、ミサイル発射実験などをしている馬鹿もいます。互いに相手国の悪口を言い合っている馬鹿もいます。そのような者が国の舵を取っている国が多く、嘆かわしいという他に言葉がありません。それを許している各国の国民にいいかげんに気付いてほしいのです。そんな思いで、この駄文を急いで一人でも多くの人に読んでもらいたいのです。

「コロナウイルスは、中国で発生した」とか、「アメリカ人が中国

に持ち込んだ」などと言い争っているアメリカの政治家も、中国の政治家も、あまりに次元が低く、ものを考える頭がないのかと、呆れ返ってしまいます。

そもそも権力に執着する政治家などというものは、そんなレベルなのでしょうか。トランプアメリカ大統領も、習中国国家主席も、互いに自国の武力を増強し、自国の利益のみを考えています。こんなことでいいのでしょうか。

昭和20（1945）年8月に、広島と長崎に原爆が投下された後の全人類、全地球の置かれている状況が見えていない愚か者と言わざるを得ないです。アメリカや中国は、宇宙空間における戦争の準備さえしているとのことですが、こんなことを許しておいていいのでしょうか。コロナ問題で、世界中が天と地がひっくり返るように騒いでいる中で、ミサイルを発射する北の將軍様に至っては正気の沙汰ではないと言わざる得ないです。

このような連中に、国の舵取りを任せている各国の国民は、人類が危ない状況にあることに気付いてほしいのです。日本国民は、「アメリカファースト」などと語っているトランプ大統領べったりの安倍首相に、日本の舵取りをさせてよいのかを考えてほしいのです。日本には、世界に冠たる日本国憲法9条があることを忘れないでほしいのです。

コロナウイルスは、中国だけではなく、ヨーロッパだって、アメリカだって、アフリカだって、地球上のどこにでも広がっていて、国境など関係がないのです。そもそも国も国境も、人間が勝手につくったもので、自然界にはないものです。人間の物欲と権力欲がつくったものです。

コロナウイルスは、人間が勝手につくった国や国境など屁とも思っていません。どこへでも勝手に入り込んでいく異人類は、人の物欲や

権力欲や浅知恵など全く気にしてないです。

アメリカも中国も武力増強競争をしてきたが、コロナウイルスという異人類には、そんな武力は糞の役にも立ちません。トランプ大統領も習国家主席も、もう気付いたことだと思いますが、まだ気付いていないかも分かりません。

相手国の人間をいかにして一気に大量に殺すかという武器を開発することが、いかに馬鹿らしいことなのか、コロナウイルスという異人類の攻撃の前では、戦力など何の役にも立たないものであることが、はつきりしたと思いますが、それに気付いてほしいのです。

コロナウイルスの感染者の人数は、戦力競争で一、二を争っている中国と米国が一位を争っている状況となっています。皮肉と言う他はありません。

ですが、そこに止まらず、発展途上国や難民キャンプなどで感染が広まつたら、その感染の拡大は、先進国などとは比べられないほどの、ハイスピードで進むのではないかという心配があります。先進国で歯止めがかからなくなったら、本当に人類滅亡という不安が現実化しないとも限りません。いますぐやれるあらゆる手を尽くさなければならぬのです。

トランプアメリカ大統領、習中国国家主席、金北朝鮮最高指導者、そして安倍日本国首相などの世界の指導者を自認している面々は、このことを視野に入れなければならないのです。

いまこそ、これまでの自分達の無能振りを、その哲学のなさを自覚し、反省し、行動してほしいのです。これまでの自分たちの馬鹿さぶりに気付いてほしいのです。そのように心から思うのです。

そもそも世界の指導者を自認するのなら、もっと根本的に物事につ

いて深く考えなければなりません。このような哲学のない、物欲と名譽欲ばかりの強い人間ばかりが世界の指導者ぶっているところに、人類滅亡の危険があると思うのです。

そのような指導者を、どこの国民も選び出し、その言動をも許しているところに、人類滅亡、地球壊滅の危険がより一層増幅しているのです。そのことに、国民一人一人が、人類一人一人がいいかげんに気付いてほしいのです。

コロナウイルス問題は、それに気付く絶好の機会です。この機会を逃さず、気付いてほしいのです。

いまや、国と国とが武力を使って争う時代ではありません。「戦争の放棄」と「戦力の不保持」は、日本国憲法9条だけではなく、世界中が共有しなければならない、ということを、全人類に気付いてほしいのです。

コロナウイルスという異人類を撃退するためには、世界中の国は戦争の放棄と戦力の不保持を宣言し、軍事費をコロナウイルス対策費に回さなければならないのです。それは、グズグズしていないで、すぐやらなければならぬことなのです。

コロナウイルス撃退のためには、世界中の国が「戦争の放棄」と「戦力の不保持」を謳った日本国憲法9条を取り入れなければならないのです。コロナウイルスと9条とは、そういう意味で、深い関係にあることに気付いてほしいのです。コロナウイルスと9条との関係につき、語りたいことはもっとあります。どういう格好になるか分かりませんが、近日中に続きを発表します。お目を通して下さい。そして、この事務所便りをお読み下さっている皆様のアドバイスとサポートをお願い致します。

# 『いなべんの哲学第4巻』の謹呈

『いなべんの哲学第4巻一道歌集その2』を発刊しました。この事務所便りをお読み戴いている皆様に、イの一番にお読み戴きたく、謹呈させて戴きます。

コロナウイルス問題で、花見や行楽シーズンとなつたのに、あまり出歩くこともできません。家の中にいる時間も多いと思います。時間潰しにお目を通してください。

コロナウイルスは、世界中で感染が拡大するなか、この先の見通しは立ちません。いつ収束（終息）するか全く分かりません。私達はどのように対処したらよいのかも分かりません。いま分かることは「感染しない。感染させない」という思いで、他人との接触を最小限度におさえるだけということになりそうです。自分は、コロナウイルスの住み処にならないという思いが必要です。

このような場合でも、ポジティブ（前向き）な生き方をしなければなりません。いつもは忙しさのため「人生はどう生きるべきか」などということを考える暇がありません。コロナウイルス問題で出掛けなければならない機会も減ったと思います。考える時間を取りれると思います。いいチャンスです。哲学などに触れてみてはいかがでしょうか。

『人生は、いまの一瞬を、まわりの人といっしょに、楽しみ尽くすのみです。』という『いなべんの哲学』は、緊急事態宣言が出されたいまこそ、実践されなければならない気がします。こういう気持ちが  
めい  
漬入るときこそ、意識して実践したいものです。

「止まぬ雨はない」のですから、いざれはコロナウイルス問題も収束（終息）する時がくると思います。それまでは、いつ感染するかという不安と経済的に厳しい状況におかれることになりますが、人生そのものが元々先の見えないものだからこそ、「いまの一瞬を」、「まわりの人といっしょに」、「楽しみ尽くさなければならない」ということになるのです。正にコロナウイルス問題で揺れ動いているいまこそ『いなべんの哲学』は実践されなければならないということになります。いつコロナウイルスに感染して死んでも、いつ倒産しても、悔いのないように「いまの一瞬を」「まわりの人といっしょに」楽しみ尽くしみましょう。

